
機械ジジイは社長である

矢ヶ部

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機械ジジイは社長である

【ZPDF】

Z0140M

【作者名】

矢ヶ部

【あらすじ】

ストーリーはとくになし。

株式会社

ここで何十年もの月日を過ぎた一体のアンドロイドが居る。
彼は今、この会社における社長の座についており、
毎日を過ごしている。

「おはよう」

「あ、おはよひらいます、社長」

彼は社内で人とすれ違う時、挨拶をする事を
一度も欠かしたことはない。

ただ、昔は背筋を真っ直ぐに、お辞儀をする時は
それぞれにふさわしい角度で行ってきたが、
その内、年を重ねる毎にアンドロイドの骨格を形成する
フレームが曲がってしまい、メンテを施しても直らない頃には
杖について普段からお爺さんのような姿勢をとるようになっていた。

「おはよう 社長ー」

一人の女性社員が彼に声を掛けながら頭を撫でていく。

「ああん、今日もツルツルで、ひんやりで気持ちいいーーー」

彼のボディに人工皮膚は使われていない。表面は鉄で
覆われている。社員として配属された当初は人間味がない、
不気味だ、などと言われてきたが今ではこうしてスキンシップを

とつてくる社員もたまにいる。

「ハツハツハ、朝から『機嫌だね』

笑いながら手を当てている頭の所々には、サビが固まつてできたシミのようなものが目立つており、昔はなめらかだった笑顔は、今や口をV字にするのが精一杯の状態である。しかし、彼はとても満足している。

「社長、本日の予定に少々変更が入りまして、午後からは -
社長室で本日の予定を聞いていると、目の前にいる秘書は胸ポケットを探るようにして手を動かし始めた。
ビタビタ、ペンを探しているようだ。

「ほり、これを使いたまえ」

「え、あ」

彼の手には色んな機能が備わつており、その内の一つに指を一本抜いてボールペンに早替わり、といつものがある。初見の人はこれにビックリするのだが

「ありがとう」わざこます、助かりました

慣れた人の反応はこうである。

「ん、インクの出が悪いですね、これ」

… 最近、いつも苦言を呈されたつもする。

それでも彼はとても満足している。

その昔、彼は完全だった。

そして今、彼は機械として不完全である。

彼の存在をどう捉えるか、それはあなたの自由です。

(後書き)

社長にもっと性格をつけて話を展開させてもよかったです
まあ、これでいいかと思つてしまつたのでそのまま投稿。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0140m/>

機械ジジイは社長である

2011年1月25日04時43分発行